

科 目 名
感染症予防学
Precautions for Infectious Diseases

2年 後期 1単位 必修

瀬 尾 量

概要・目標

1996年に米国の Centers for Disease Control and Prevention (CDC) から出された「Guideline for Isolation Precautions in Hospitals (病院における隔離予防策のためのガイドライン)」を契機とし、全世界に対して科学的な根拠に基づいた感染制御の必要性が強く示唆された。本講義では、まず基本的な標準予防策と感染経路別対策を学び、感染対策の重要性を理解する。また、微生物の性状に基づく感染防御および化学療法の相違について理解する。さらに、適正な消毒剤使用法、カテーテル管理の重要性および病院感染サーベイランスの必要性を学ぶ。本講義全体を通して、エビデンスに基づいた感染対策の実践が経済的にも有効であり、その感染制御に関わるスタッフとして薬剤師の積極的参画が重要であることを認識する。併せて、免疫反応の臨床応用に関する基本的知識と技能を身につける〈C10(2)〉。又、公衆衛生の向上に貢献するために感染症、生活習慣病、職業病についての現状とその予防に関する基本的知識、技能、態度を修得する〈C11(3)〉。

授業計画

- (1) 病院感染対策の成り立ちと標準予防策／感染対策の重要性 〈C11(3)-3-1〉
- (2) 抗菌化学療法の基本的理解／薬剤耐性の基礎知識
- (3) 消毒とカテーテル管理／病院感染のサーベイランス 〈C11(3)-3-1〉
- (4) 細菌性感染症の種類と感染防御 〈C11(3)-3-1~5〉
- (5) ウイルス性感染症の種類と感染防御 〈C11(3)-3-1~5〉
- (6) ワクチンによる感染症の予防（歴史、投与経路、現状と将来） 〈C10(2)-3-1~3、C11(3)-3-6〉
- (7) 消化器外科領域における感染・管理／感染制御マニュアルの作成 〈C11(3)-3-1〉

授業方法

講義を中心に、適宜、プリント、パワーポイントを使用する。
また、関連の国試問題も適宜、おりませる。

評価方法

筆記試験、出席状況、レポートにより総合的に評価する。

教 材

プリントを適宜、配布する。

参考書：「薬剤師のための感染制御マニュアル」著（薬事日報社）、本体¥3,600